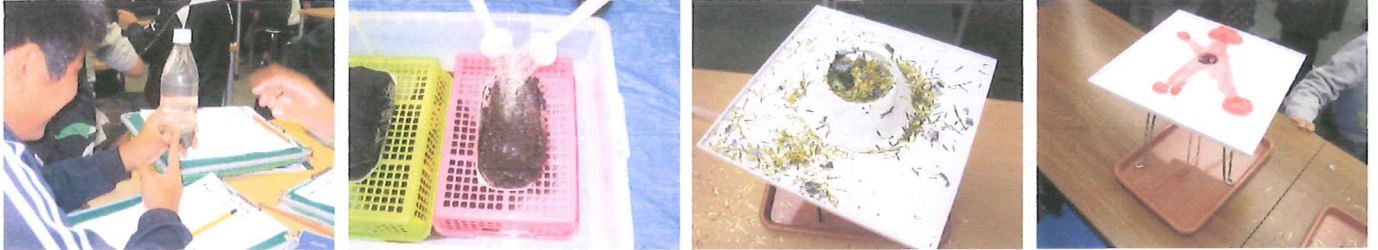


体験学習で防災教育

男鹿市ジオパーク学習センター

男鹿市ジオパーク学習センターでは、説明員が常駐し防災に関する様々な体験学習をしています。



[写真]

上段左から
液状化現象実験・土砂災害
実験・水蒸気爆発実験・マ
グマの粘りの違いによる火
山噴火実験

下段左から
耐震住宅実験・ジオサイト
で地層観察・火山噴火観察



「説明内容の概要」

「天災は忘れた頃にやってくる」というようなことを書いたのは戦前の物理学者・寺田寅彦ですがそれ以前にも鴨長明が『方丈記』の中で地震について書いています。また学問の神様として知られる菅原道真が国家試験を受けた際にも地震についての設問がありました。最近でも御嶽山の噴火があったばかりです。どうしてこんなに日本列島では地震や火山の噴火が多いのか、男鹿半島・大湯ジオパークを通して考えてみましょう。

まずジオサイトの一つである寒風山では、いくつかの火口の跡を見ることができます。中でも「鬼の隠れ里」では、粘り気の強いマグマが地上で固まりその後崩れた噴火の跡を観察できます。「八望台」からは、地下水に触れて爆発した跡の目淵を通して噴火の様子を知ることができます。このような噴火の様子は、ジオパーク学習センター内の実験で確かめられます。日本列島では、火山の爆発、地震による家屋倒壊や津波、豪雨による土砂災害など様々な災害が想定されています。学習センターでの土砂災害の実験では、集中豪雨の怖さが伝わってきますし、液状化現象や耐震住宅の実験では、その原因を知ることで地震への対応策を考えます。

さらに、もう少し詳しく地震や火山の噴火の原因を考えますと、プレートの動きが関係していることがわかってきます。また、今までの例から「自分の命は自分で守る」という強い気持ちが必要であることがわかります。

※実験メニューにより体験学習時間が違いますので、ご相談ください。またジオサイトの現地観察は説明員が同行します。